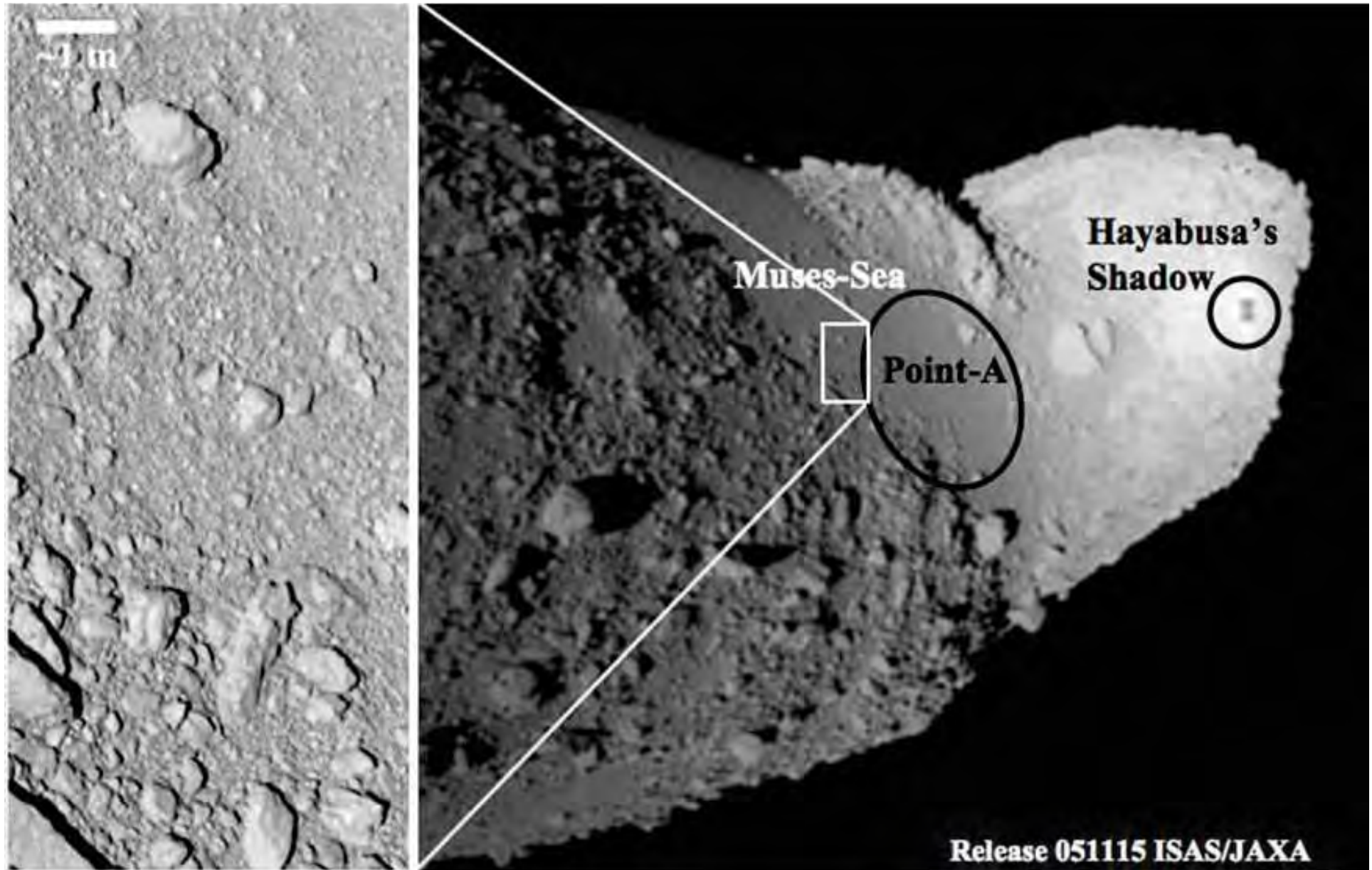
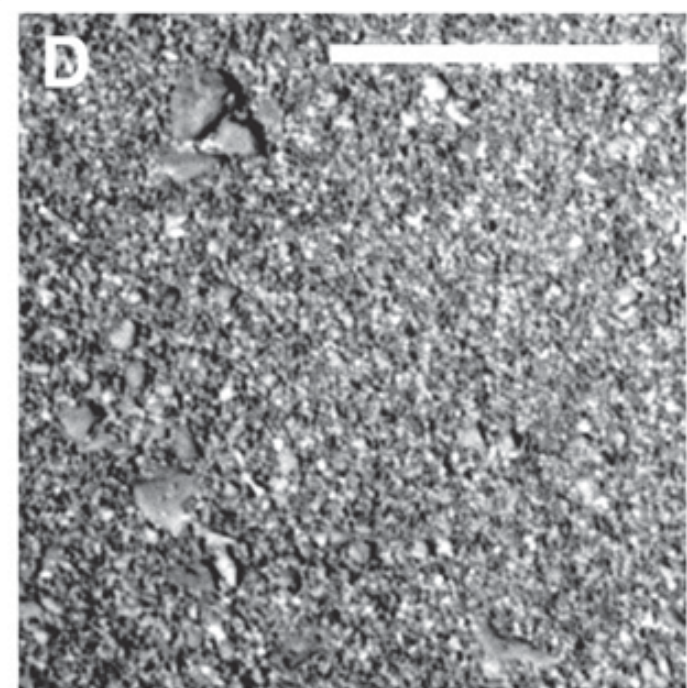
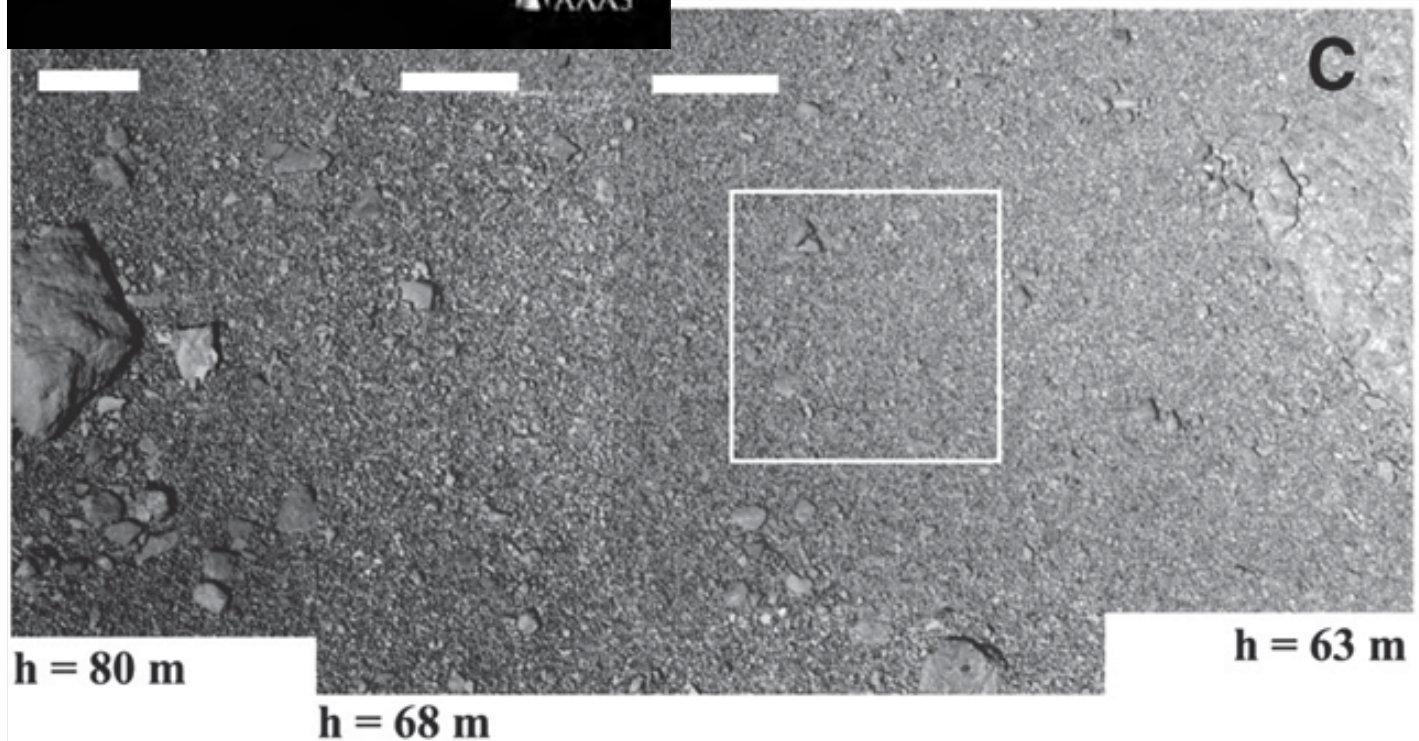
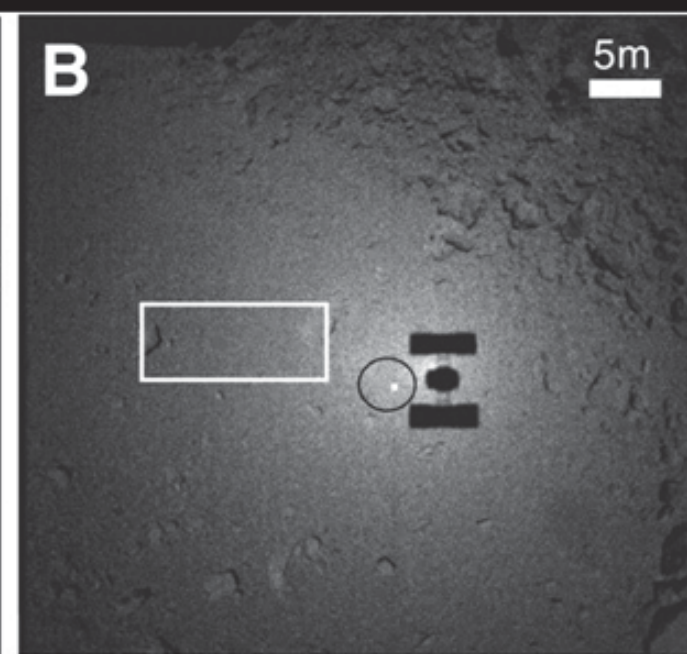
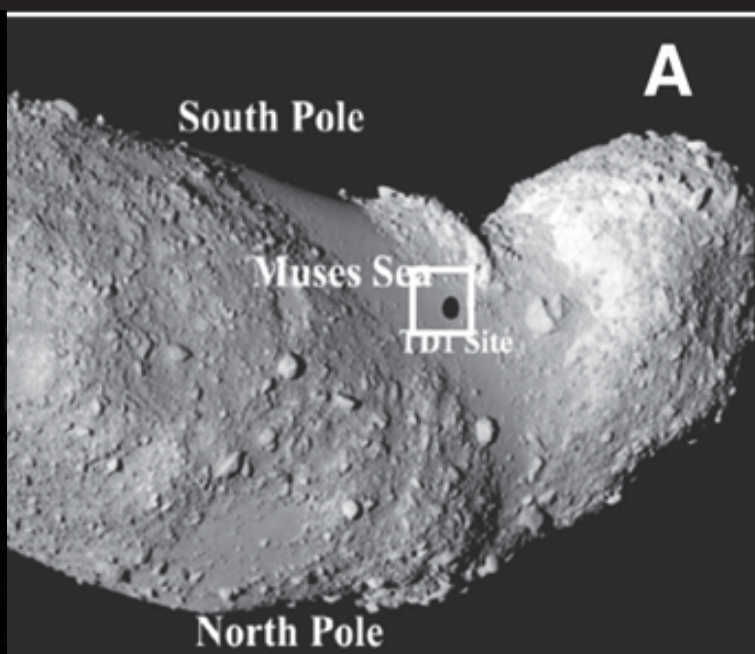
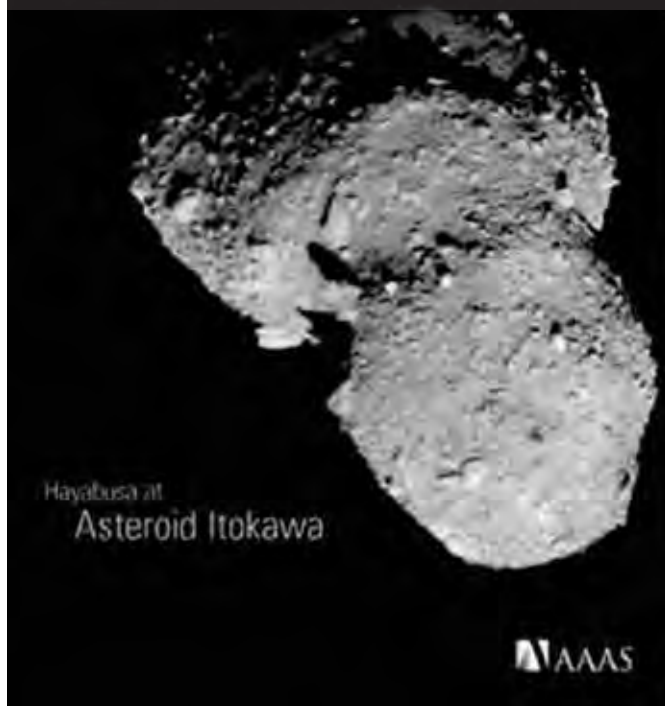


「イトカワ」へのタッチダウン

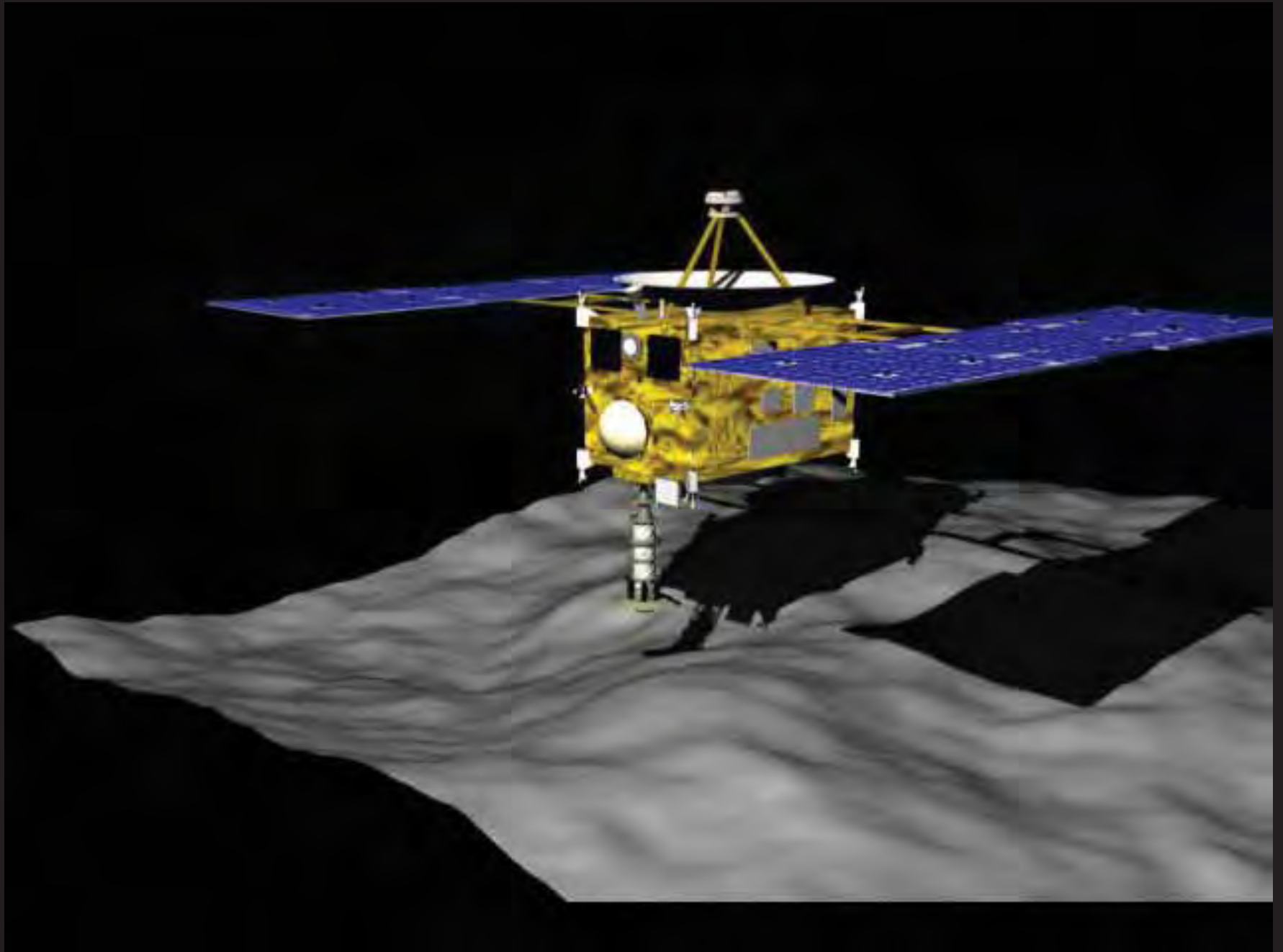
2005年11月19日, 26日



Release 051115 ISAS/JAXA



MUSES-C: "Hayabusa" Falcon



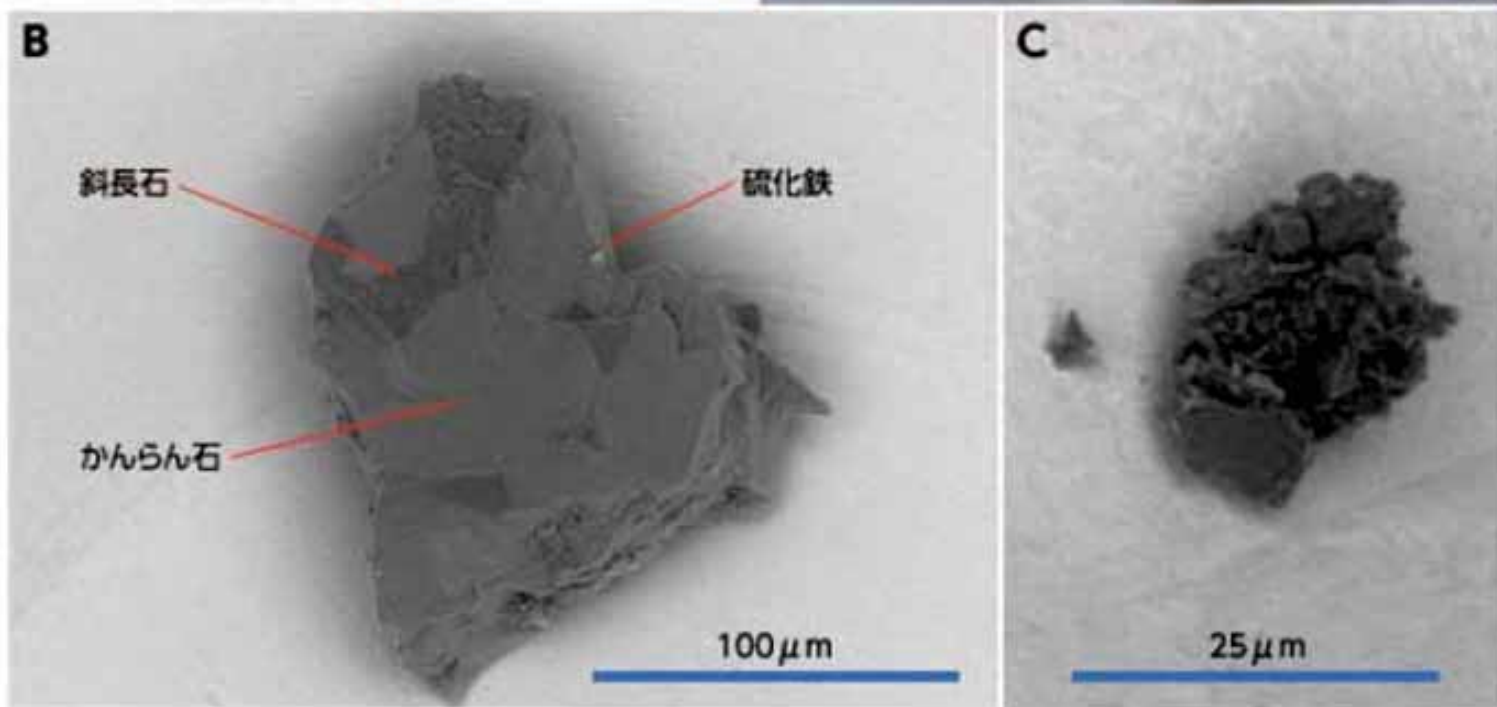
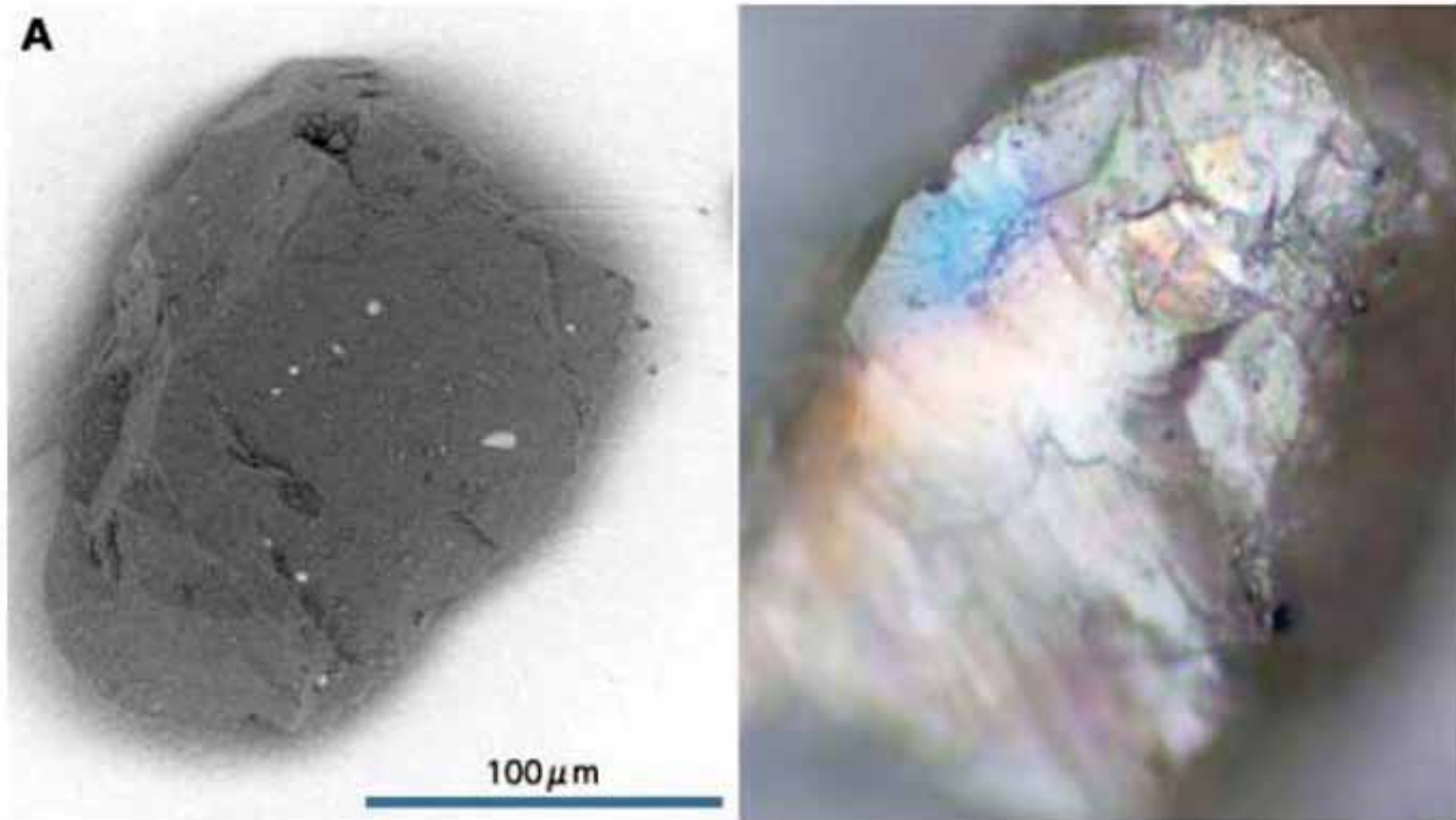


平成23年8月26日 東北大学発表

東北大学大学院理学研究科・理学部地学専攻中村智樹 (なかむらともき) 准教授らは、高解像度電子顕微鏡や大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構と大型放射光施設SPring-8の放射光X線を用いて小惑星探査機はやぶさ搭載の帰還カプセルにより持ち帰られた微粒子サンプルを分析し、小惑星イトカワの物質構成と形成の歴史を世界で初めて解明しました。。

『イトカワの母天体の大きさは直径20km程度と考えられ、中心部分の温度は約800°Cまで上昇し、その後、ゆっくりと冷えた。その後、大きな衝突現象が起き、飛び散った破片が再集積したものが現在のイトカワとなった。』





ラブルパイル Rubble Pile



はやぶさサンプルのサイエンス



「はやぶさ」の成果

⇒ 未踏峰へむけての挑戦

周到な準備

**挑戦的なプロジェクトに関わることが
できたことの喜び**

ロボティクス、宇宙探査、超小型衛星を軸とした 大学における研究開発と人材育成

- 小惑星探査機「はやぶさ」
 - 宇宙ロボットが描く「夢」
 - 小型衛星(大学衛星)「雷神」「雷鼓」
 - 月惑星探査ロボット(ローバー)
 - まとめ
-